

2023年度春学期の授業・学生生活に関する
アンケート
(ダイジェスト版)

教学IRプロジェクト

2023年9月

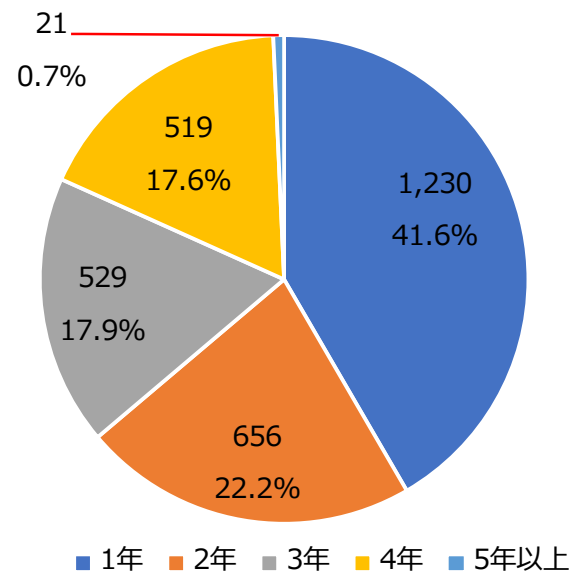


- 1 調査期間：2023年7月10日（月）～ 2023年7月31日（月）
- 2 調査対象：学部生（27,722名）
- 3 調査方法：インターネットを活用したアンケート調査（無記名）
- 4 有効回答：2,955件（回答率10.7%）（前回調査より-1.2pt）
- 5 回答属性：

Q2. 所属学部

選択肢	件数	%
01.法学部・法学研究科	298	10.1
02.文学部・文学研究科	621	21.0
03.経済学部・経済学研究科	224	7.6
04.商学部・商学研究科	276	9.3
05.社会学部・社会学研究科	389	13.2
06.政策創造学部・ガバナンス研究科	136	4.6
07.外国語学部・外国語教育学研究科	111	3.8
08.人間健康学部・人間健康研究科	113	3.8
09.総合情報学部・総合情報学研究科	285	9.6
10.社会安全学部・社会安全研究科	113	3.8
11.システム理工学部	154	5.2
12.環境都市工学部	112	3.8
13.化学生命工学部	119	4.0
14.国際部（別科生・交換受入留学生など）	4	0.1
	2,955	100.0

Q3. 学年

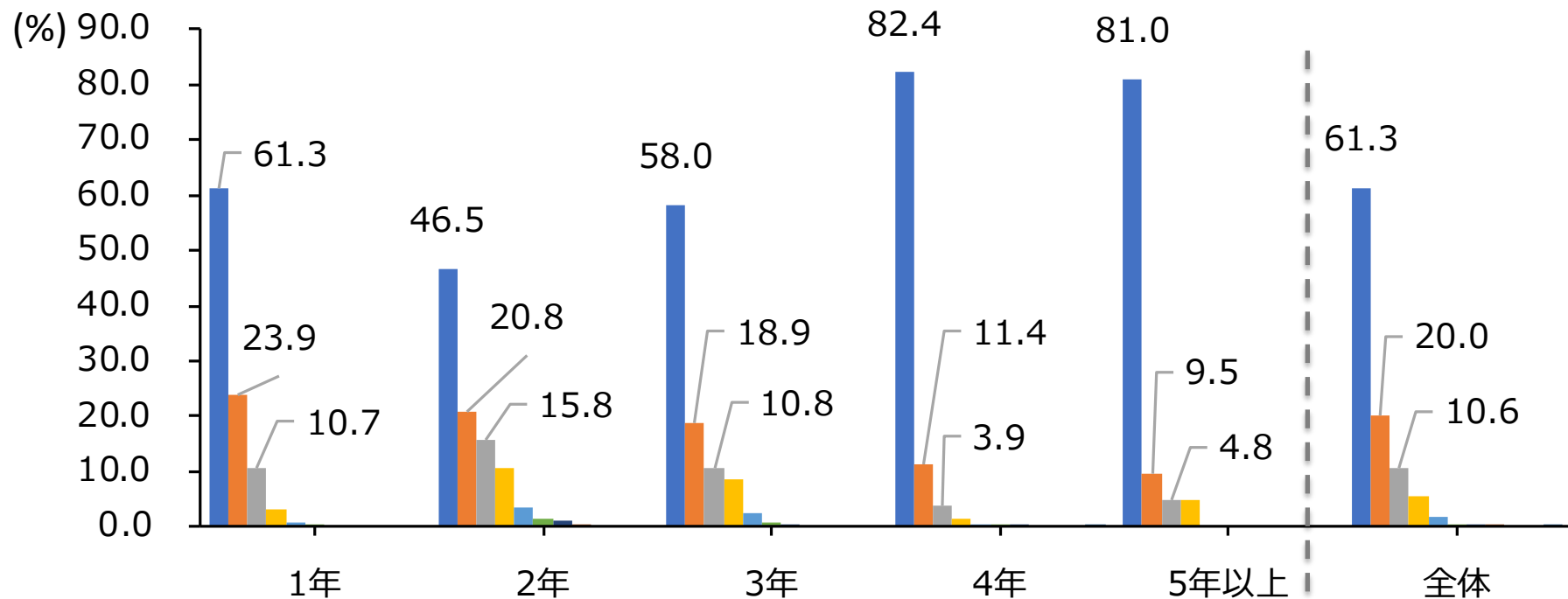


I 対面授業と遠隔授業に関すること



Q7.2023年度春学期における遠隔授業の履修状況

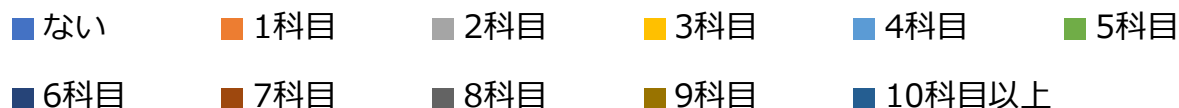
- 2023年度春学期から対面授業が基本となった
- 遠隔授業の平均科目数は2年生が最も多く、次いで3年生が多い



平均値

	1年	2年	3年	4年	5年以上	全体
2023年度	0.6	1.1	0.8	0.3*	0.3	0.7
(参考) 2022年度	12.9	12.1	10.0	2.7	4.7	10.0

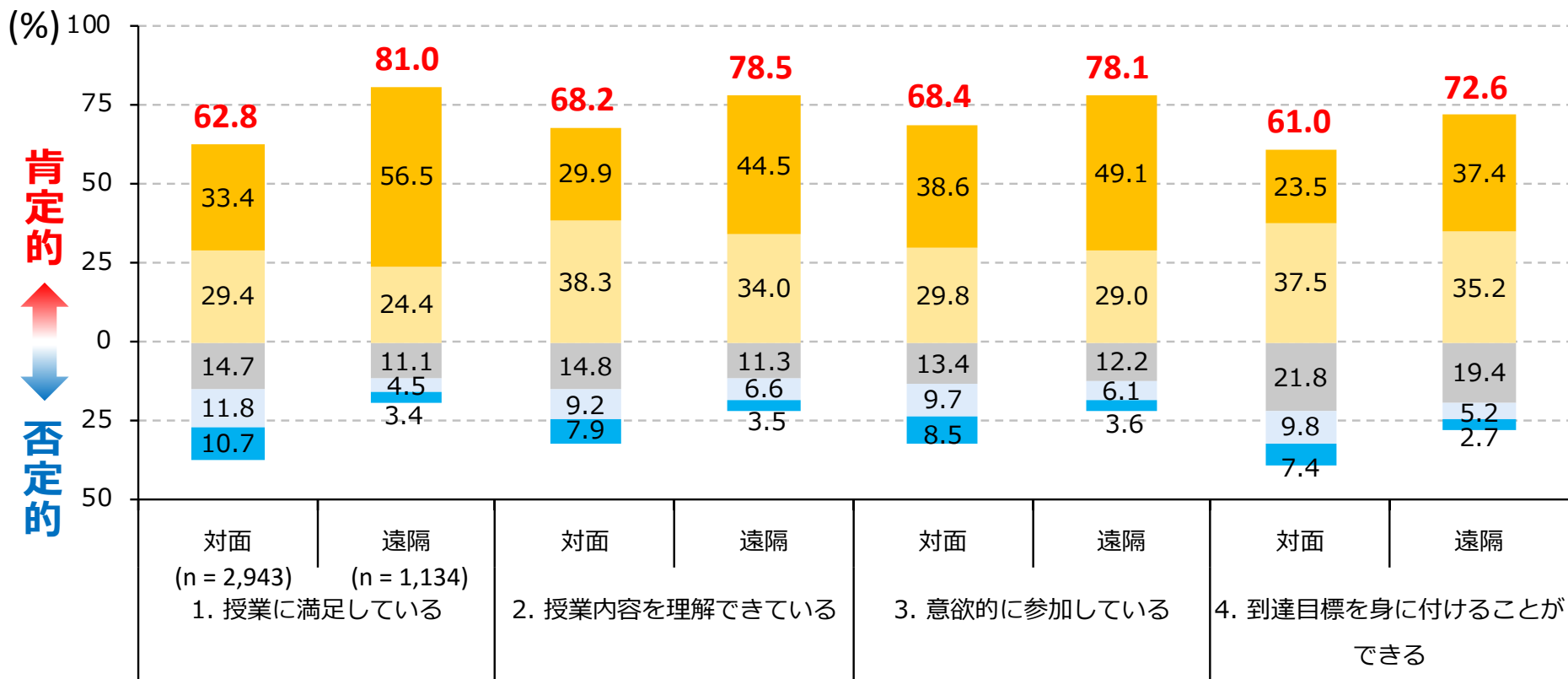
※：2022年度の選択肢は「なし」～「20科目」、2023年度は「なし」～「10科目以上」(10として計算)。* は「10科目以上」の選択あり。



KANSAI UNIVERSITY

Q4,Q8.対面・遠隔における授業の充実度

- 満足度、理解度、意欲、到達目標獲得のどの項目においても、遠隔授業のほうが肯定的回答が多い

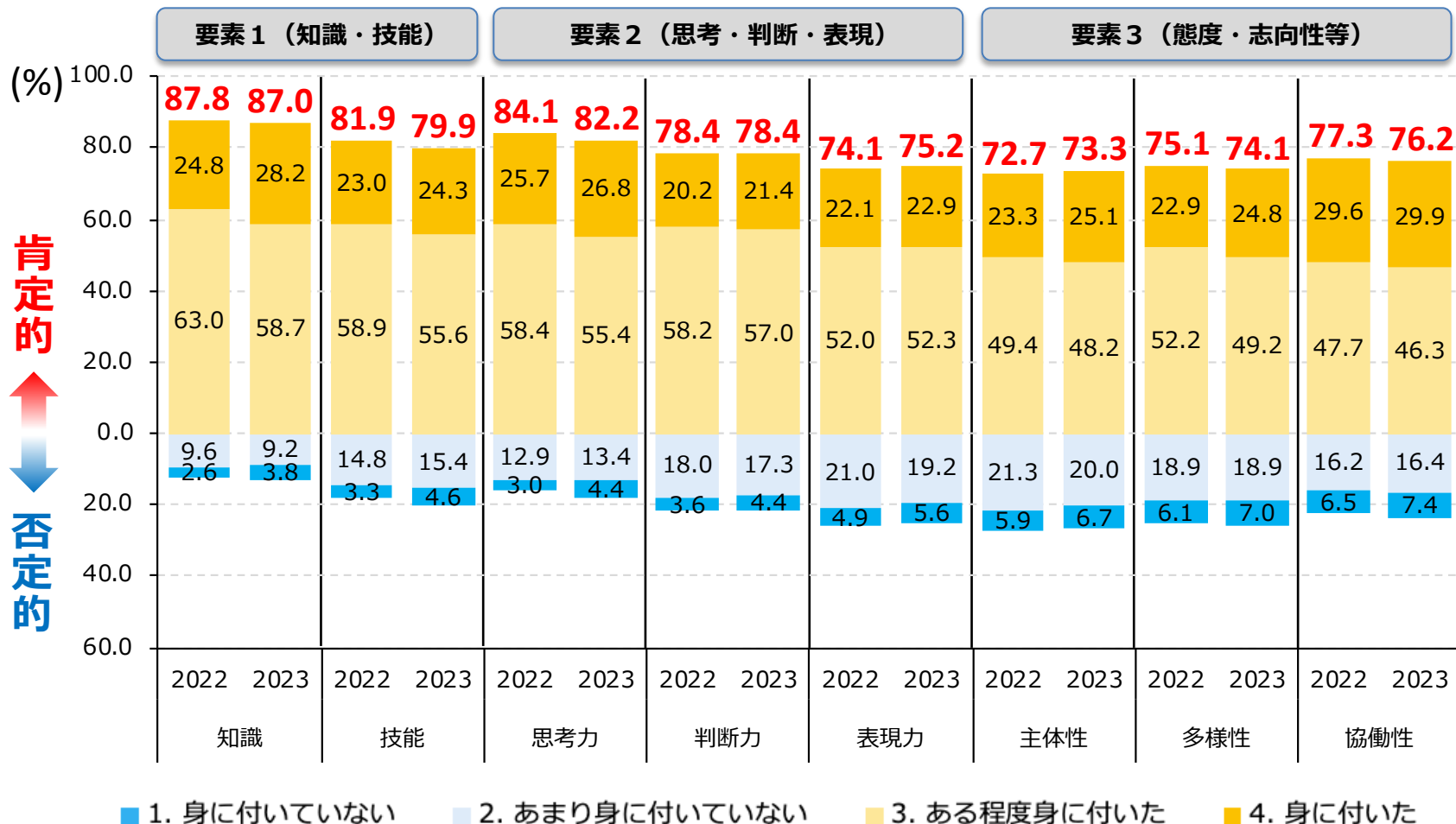


- 1. あてはまらない
- 2. どちらかといえばあてはまらない
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばあてはまる
- 5. あてはまる



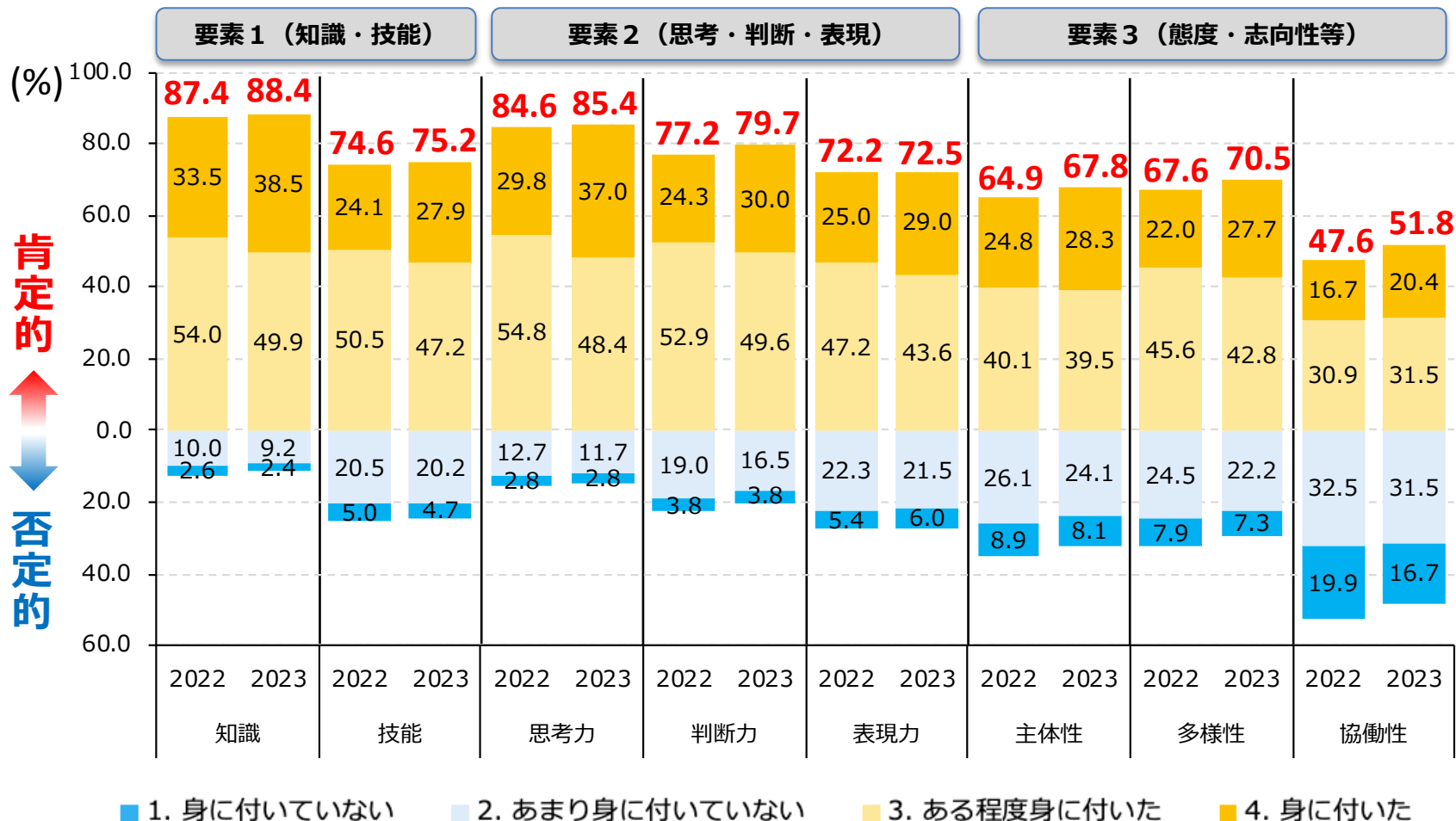
Q5.能力獲得実感の経年比較（1）【対面授業】

- 2023年度は、肯定・否定両極の回答がともに増加傾向
- 両年度とも、要素3（態度・志向性等）が低い傾向



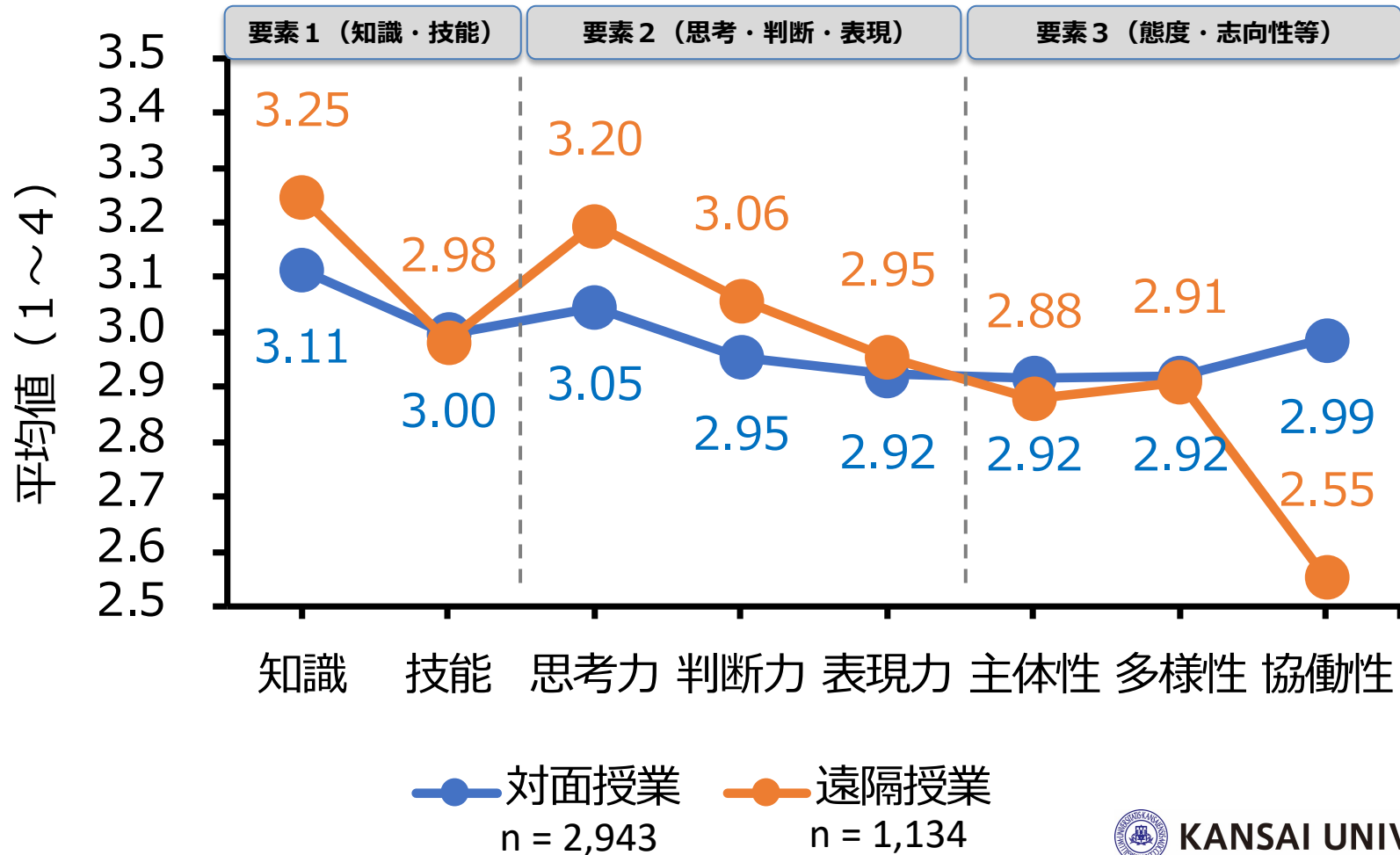
Q9.能力獲得実感の経年比較（2） 【遠隔授業】

- 2023年度は、各項目において肯定的な回答が増加傾向
- 両年度とも、要素3（態度・志向性等）、特に協働性が低い傾向



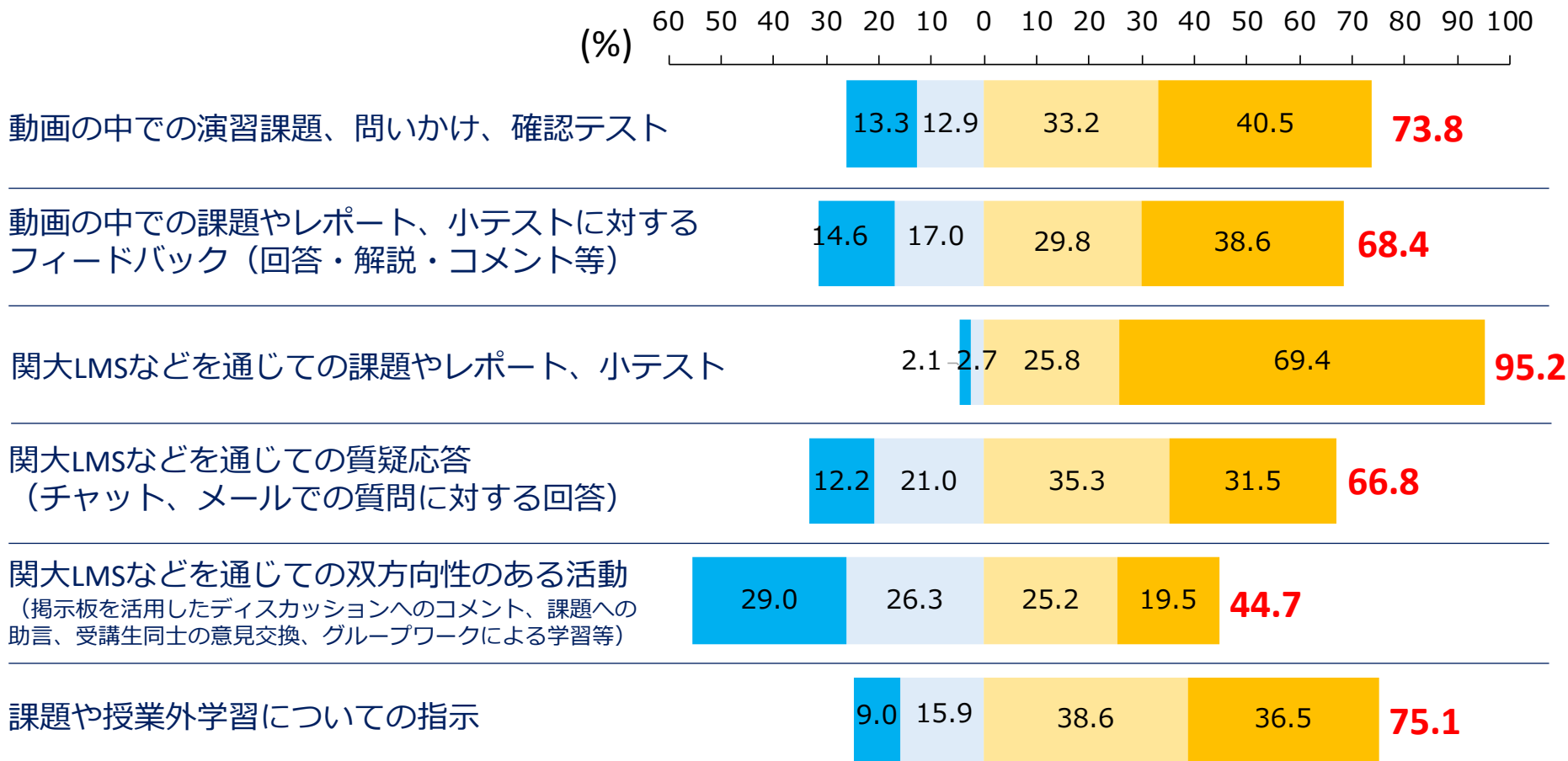
Q5,Q9.対面・遠隔における能力獲得実感の比較

- 要素1（知識・技能）と要素2（思考・判断・表現）は、遠隔授業が高い傾向
- 要素3（態度・志向性等）は、対面授業が高い傾向



Q11.遠隔授業（オンデマンド）における活動状況

- LMSなどによる双方向性のある活動（ディスカッション、助言、意見交換、グループワークなど）の値が特に低い



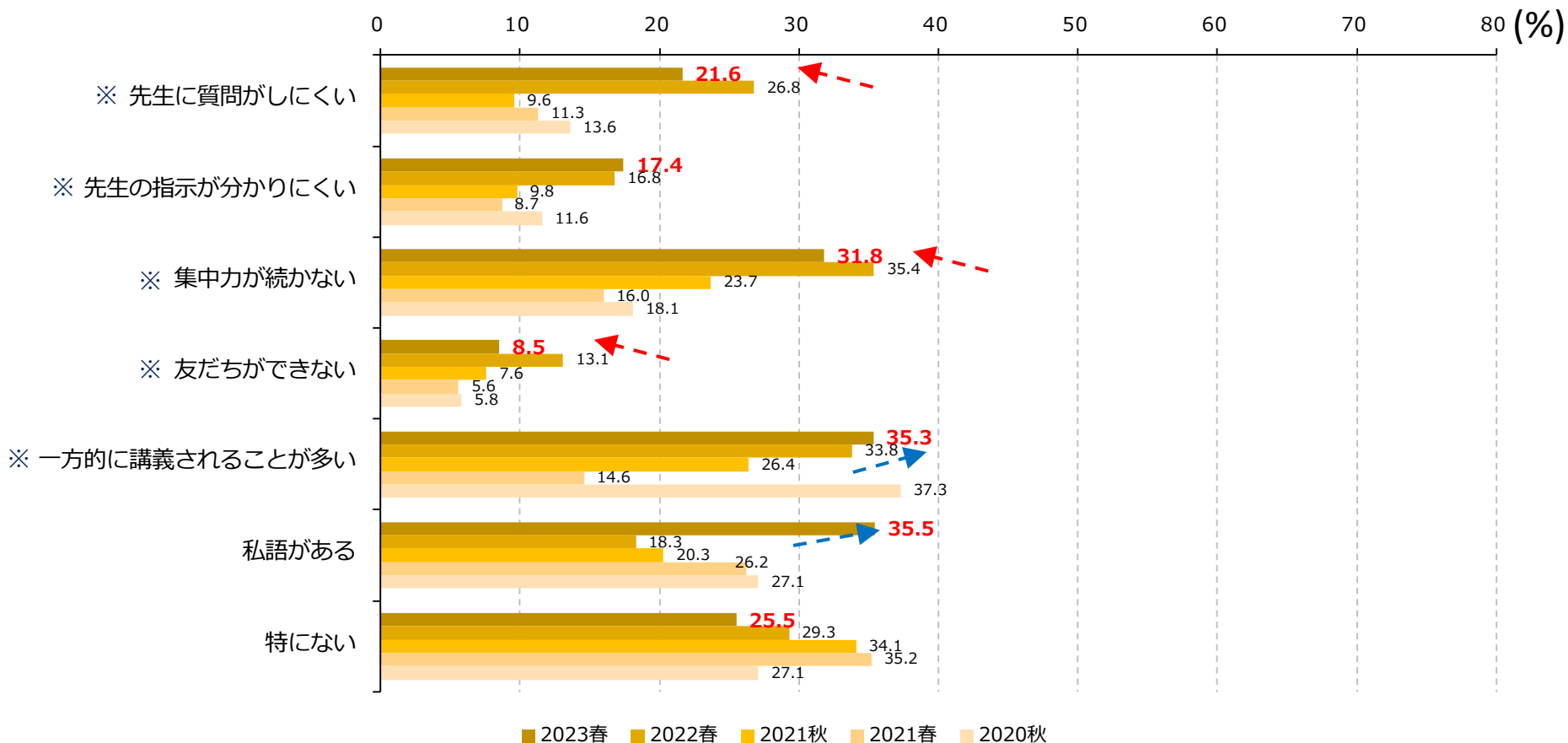
否定的 ← → 肯定的

■ 1. なかった ■ 2. あまりなかった ■ 3. ある程度あった ■ 4. よくあった



Q6.受講して「困っている」こと【対面授業】

- 「私語がある」「一方的に講義」がこれまでで最も高い（35%）
- 昨年度に比べ、「先生に質問がしにくい」「集中力が続かない」「友だちができない」の値が低くなった

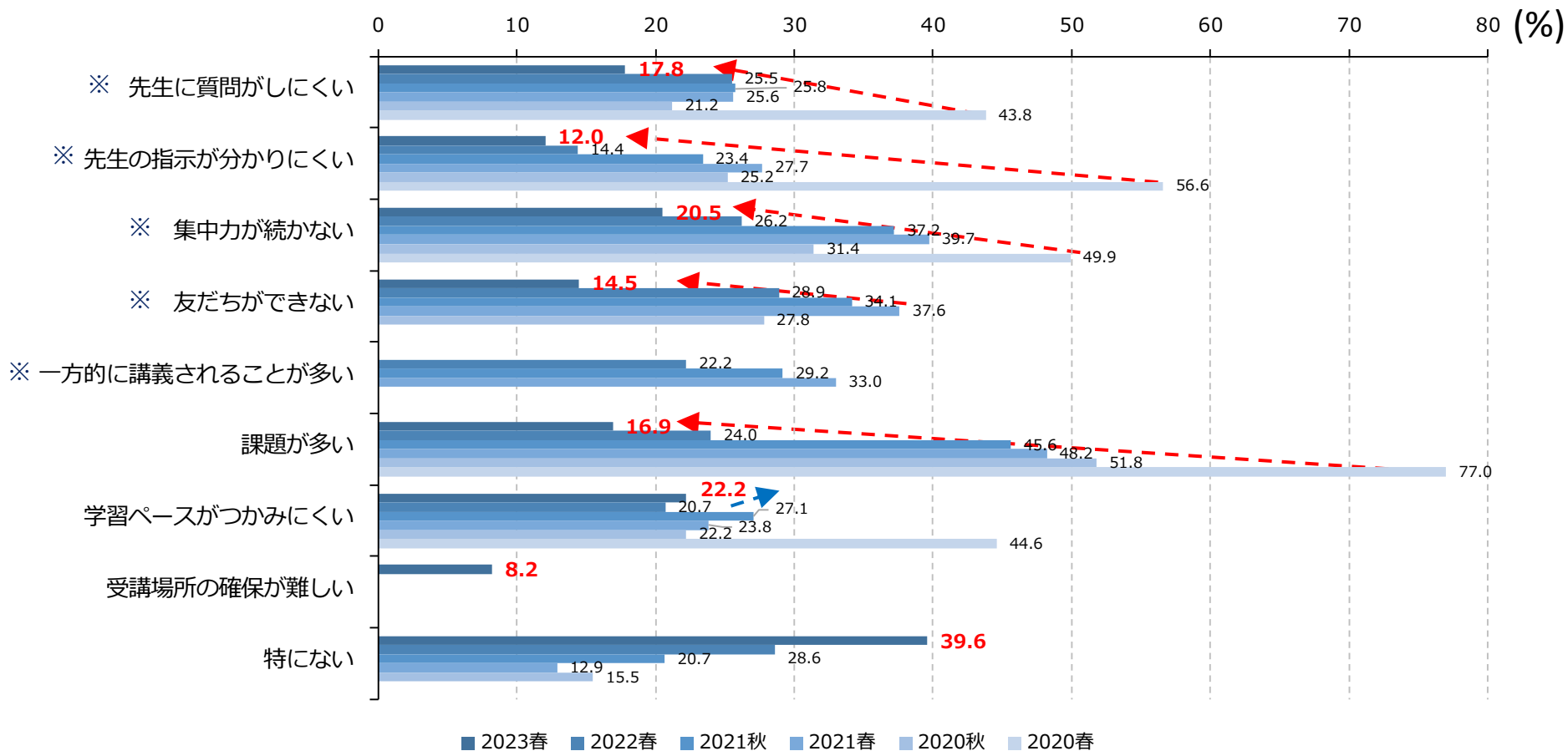


- 複数選択（割合:選択数/有効回答数）
- 赤字：今年度の値（記載がない項目は、今年度の調査から除外されていることを示す）
- ※：対面・遠隔で共通の項目



Q10.受講して「困っている」こと【遠隔授業】

- 「学習ペース」の項目以外は、過年度調査より低くなった(8.2~20.5%)
- 共通項目について対面授業と比べると、「友だちができない」の項目以外は全て遠隔授業のほうが低い



- 複数選択 (割合:選択数/有効回答数)
- 赤字: 今年度の値 (記載がない項目は、今年度の調査から除外されていることを示す)
- ※: 対面・遠隔で共通の項目

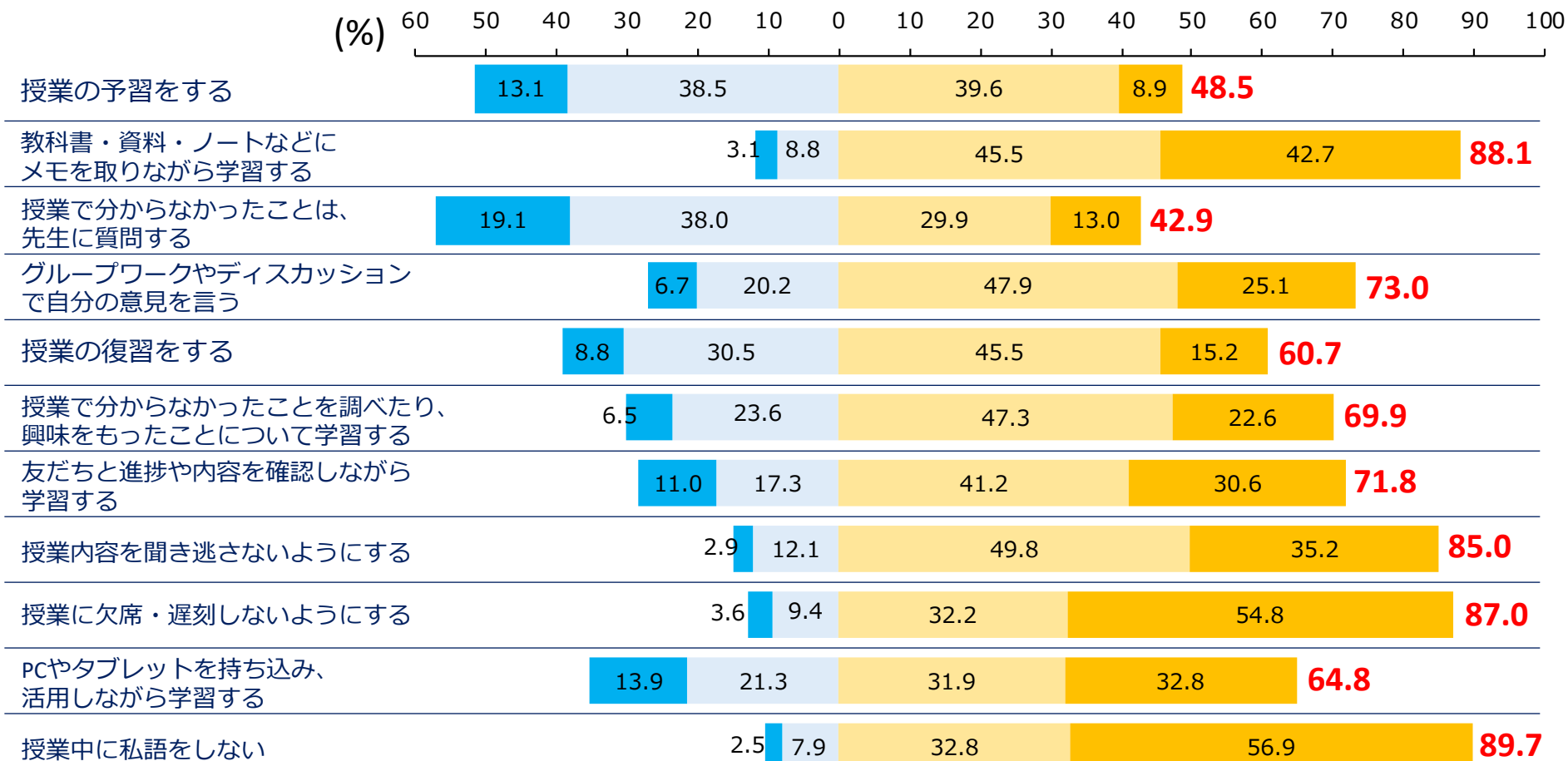


Ⅱ 学習スタイルに関すること



Q12.学習における普段からの取り組み

- 「メモを取りながら学習」や「授業中に私語をしない」が特に高い
- 「先生に質問する」や「授業の予習をする」が低い

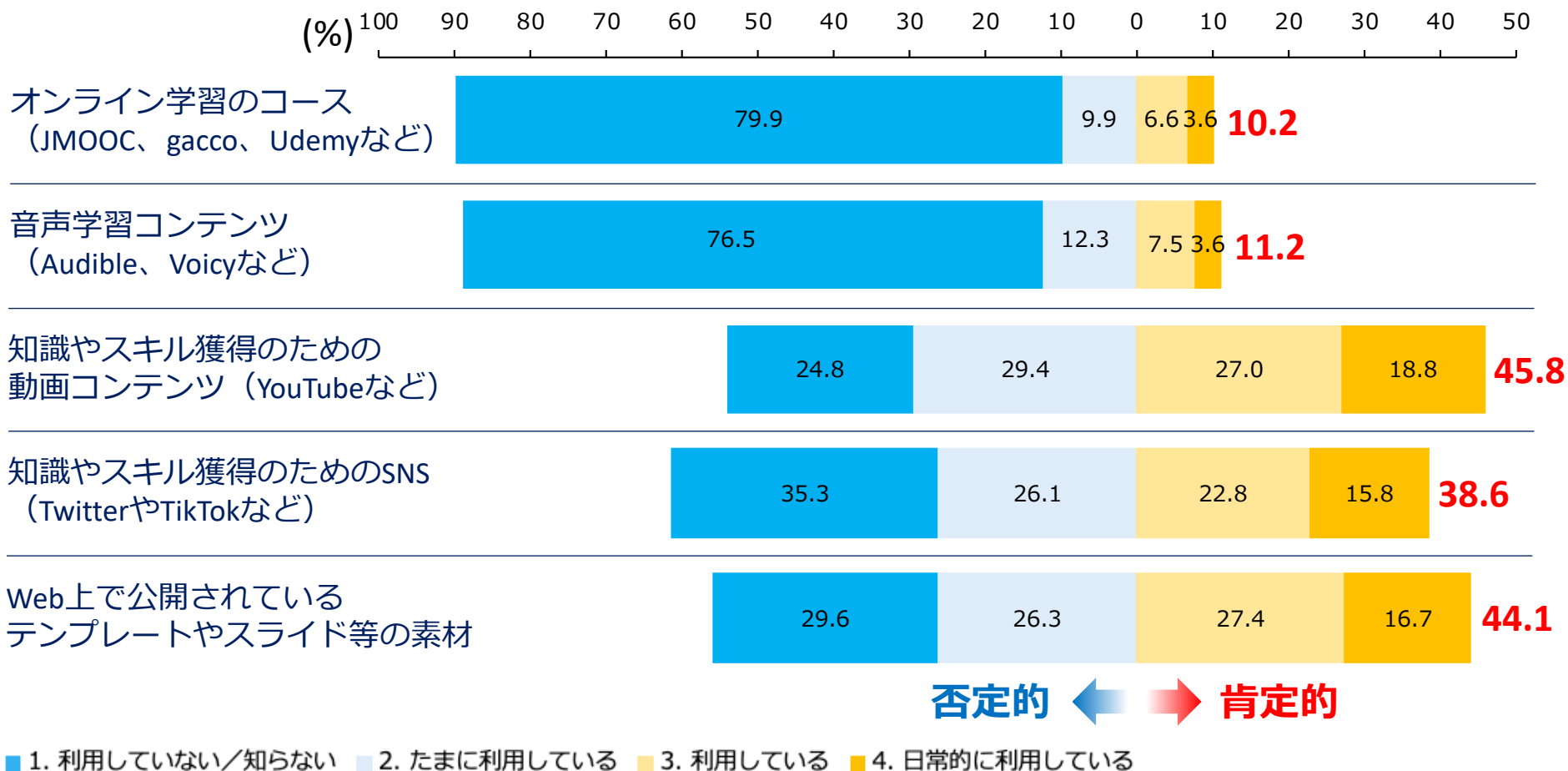


否定的 ← → 肯定的



Q13. 学習におけるデジタルテクノロジーの利用状況 14

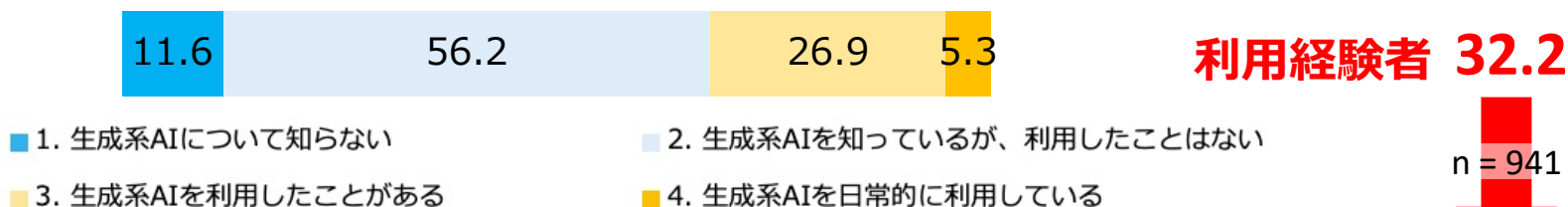
- 「オンライン学習のコース」や「音声学習コンテンツ」が特に低い
- 「動画コンテンツ」や「Web上のスライド」などが比較的高い傾向



Q14,Q15.生成系AIの利用状況（1）

- 生成系AI（ChatGPTなど）の利用経験者は32.2%
- 利用目的は、「個人的な調べ物」「授業課題の参考」が特に高い

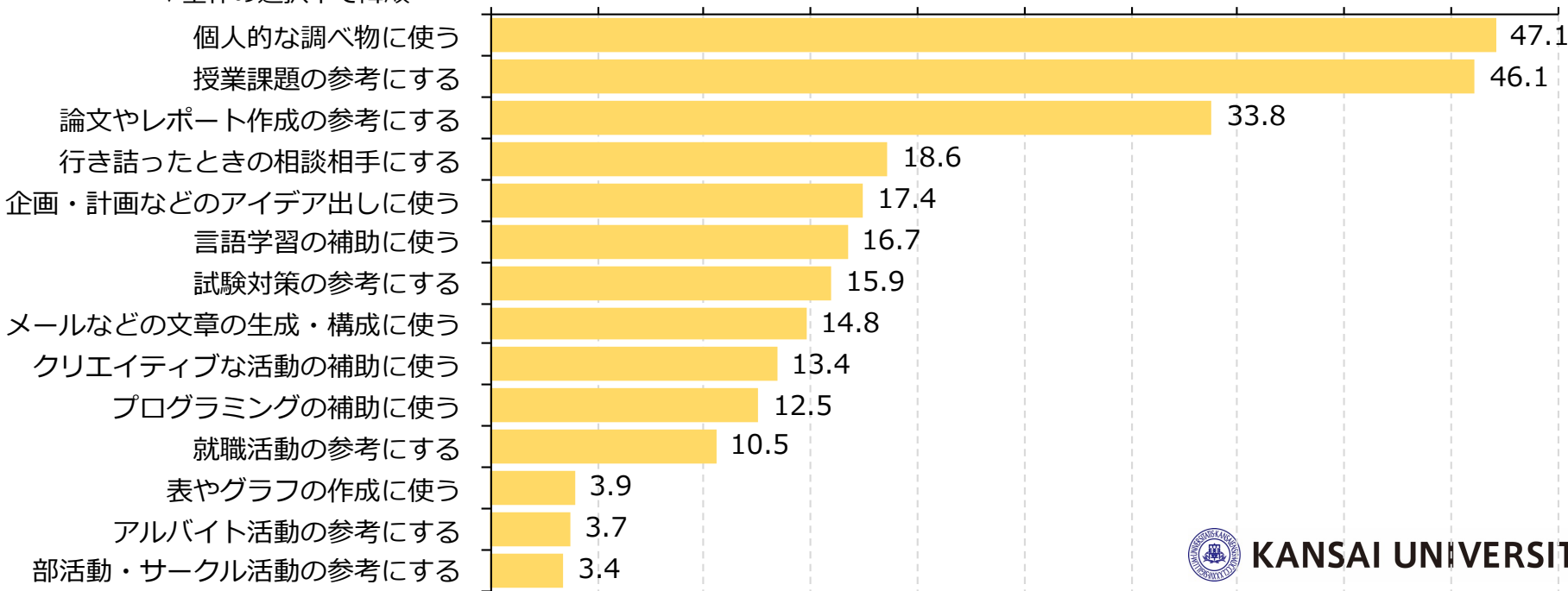
70 60 50 40 30 20 10 0 10 20 30 40 50 60 70 (%)



n = 941

▼全体の選択率で降順

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 (%)

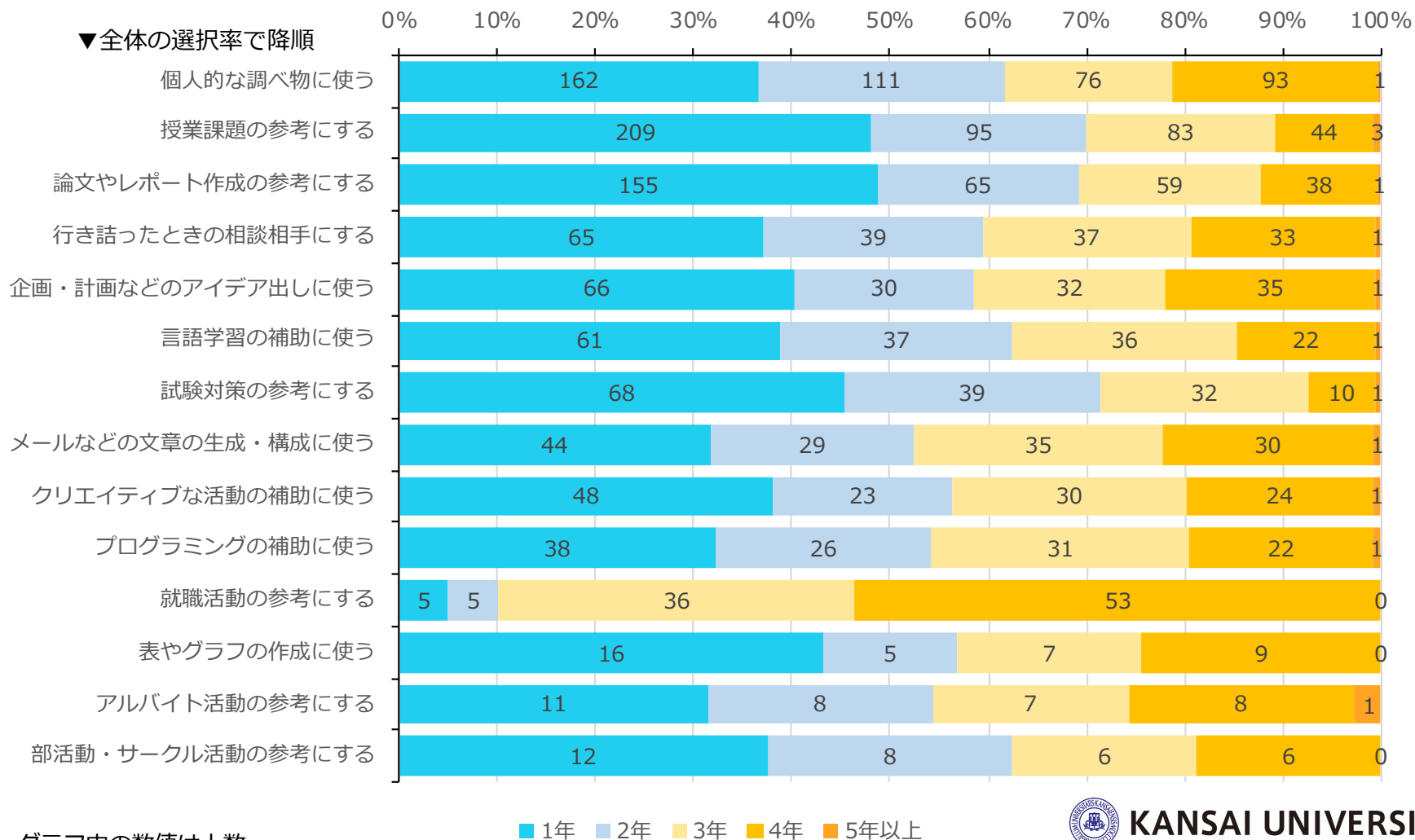


・複数選択（割合:選択数/有効回答数）



Q14,Q15.生成系AIの利用状況（2）：学年の内訳

- 「試験対策」「授業課題の参考」などは、2年生以下の割合が多い
- 「就職活動の参考にする」は、3年生以上の割合が突出して多い



・グラフ中の数値は人数

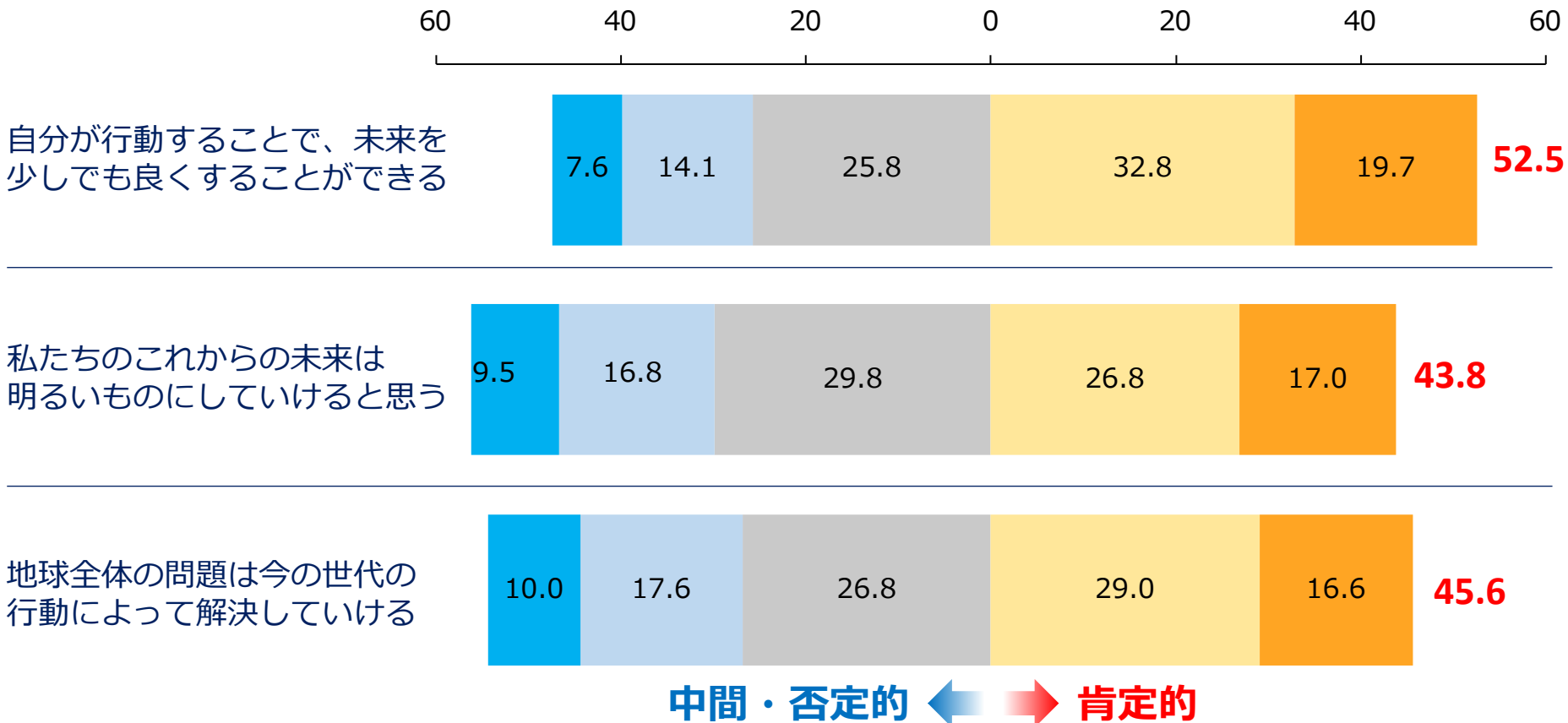


Ⅲ 社会変化に対する学生の意識 に関すること



Q16.社会に対する考え方

- 「自分の行動で未来を良くできる」が比較的高い傾向(肯定:52.5%)
- 「私たちの未来は明るいものにしていける」が低い傾向(肯定:43.8%)

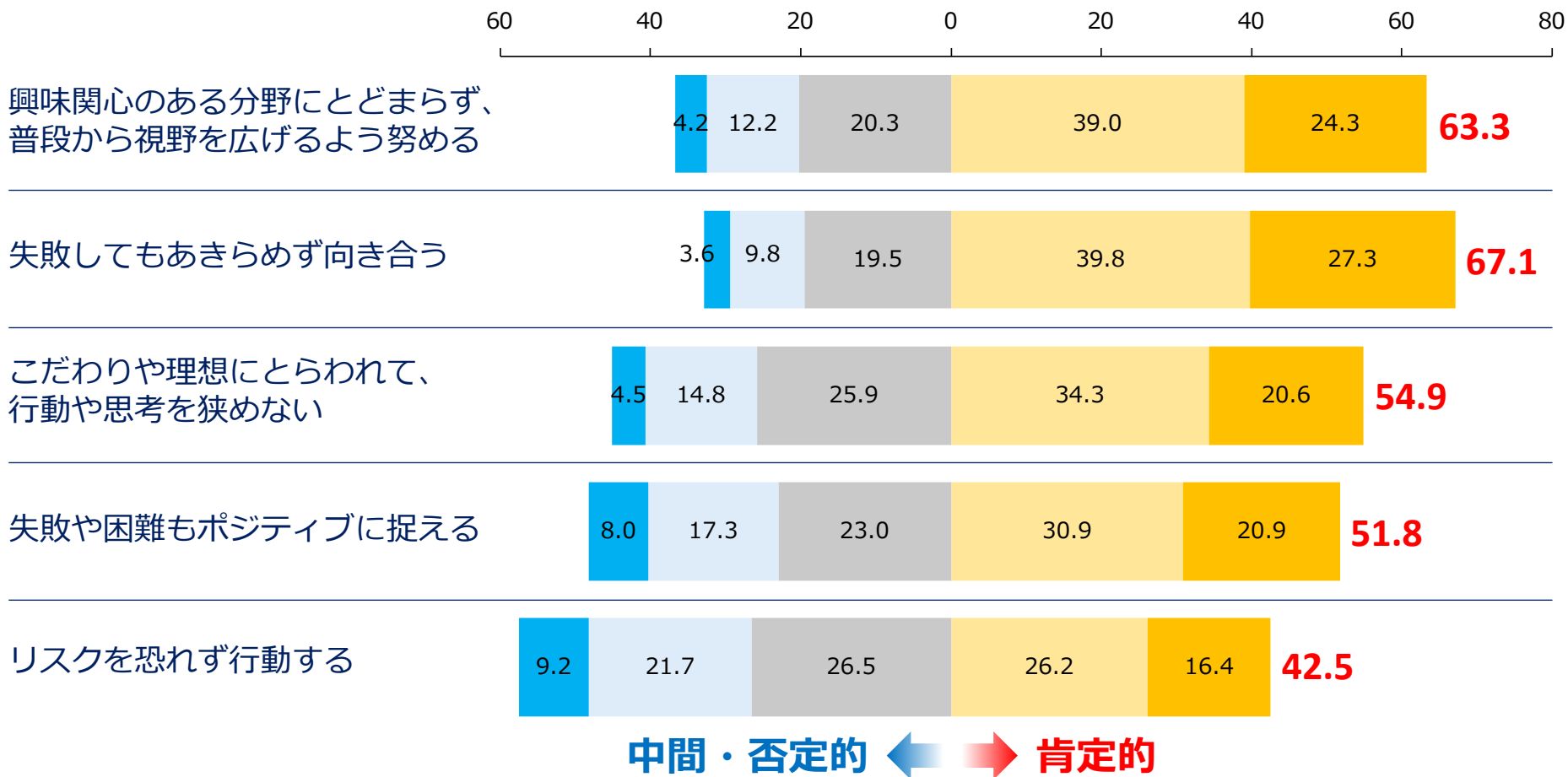


■ 1. そう思わない ■ 2. どちらかといえばそう思わない ■ 3. どちらともいえない
■ 4. どちらかといえばそう思う ■ 5. そう思う



Q17. 困難・挑戦・失敗に対する考え方

- 「失敗してもあきらめず向き合う」が最も高い(肯定:67.1%)
- 「リスクを恐れず行動する」が最も低い(肯定:42.5%)

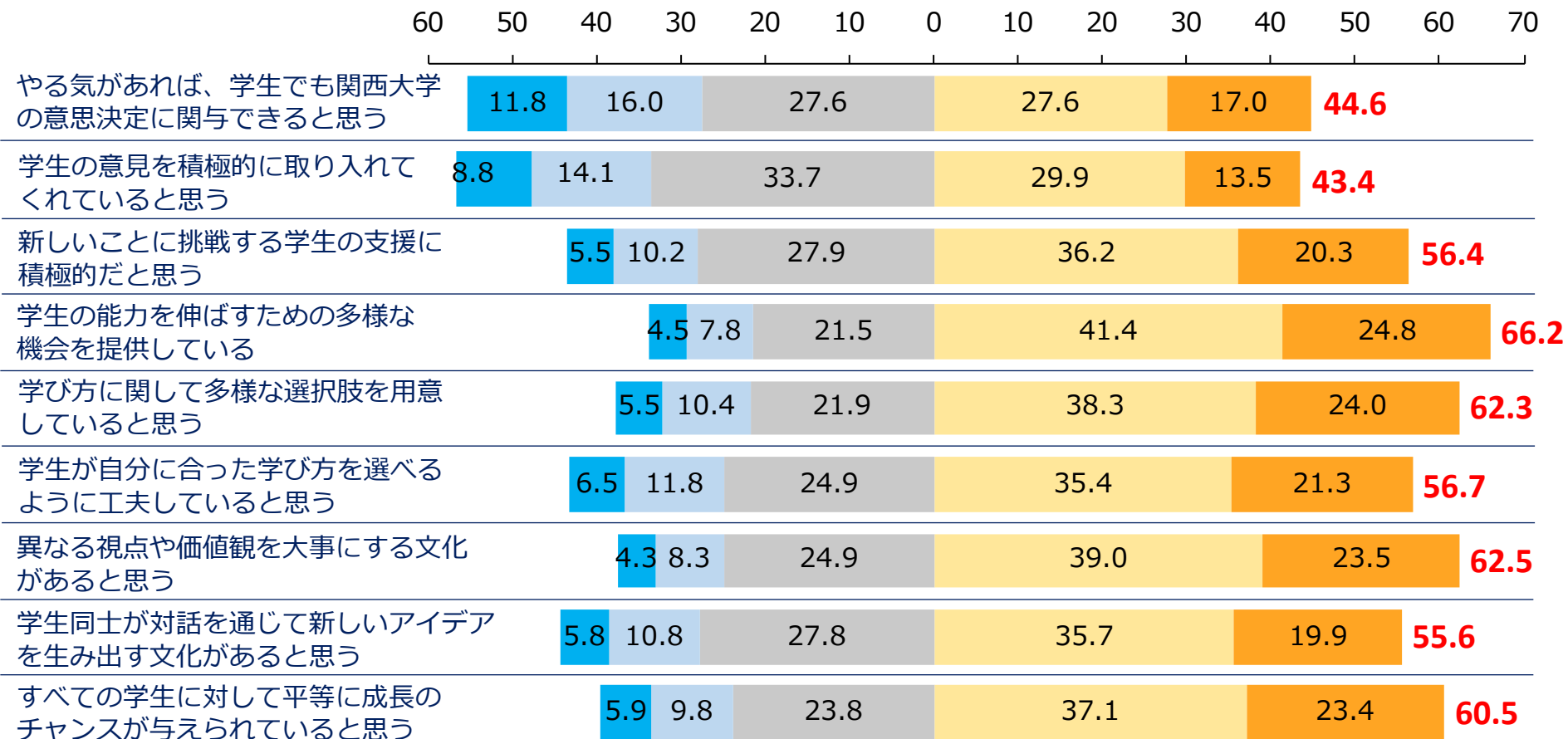


■ 1. そう思わない ■ 2. どちらかといえばそう思わない ■ 3. どちらともいえない
■ 4. どちらかといえばそう思う ■ 5. そう思う



Q18. 学生参画に関する大学への評価

- 「能力を伸ばす多様な機会を提供している」が最も高い(肯定:66.2%)
- 「学生の意見を取り入れてくれている」が最も低い(肯定:43.4%)



中間・否定的 ← → 肯定的

- 1. そう思わない
- 2. どちらかといえばそう思わない
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思う
- 5. そう思う

